

第3回新図書館西敷地利活用検討委員会の概要について

日 時：平成28年8月24日（水） 午後2時00分～午後3時50分

場 所：総合あんしんセンター 3階大会議室

出席者：8名 委員長 産田 節雄 副委員長 広末 幸彦
委員 和泉 潤 委員 古谷 純代
委員 吉岡 諄一 委員 渡部 淳
委員 中澤 慎二 委員 清水 博

欠席者：1名 委員 土居 純子

事務局： 高知市商工観光部副部長

松村 和明

参事商工振興課長事務取扱 狩場 信壽

商工振興課中心市街地・地域商業活性化推進室長 松岡 宏輔

商工振興課中心市街地・地域商業活性化担当係長 和田 夕子

- 1 開会
- 2 議事 (1) 今後の進め方と検討手法（委員長提案）
(2) 課題の抽出と分析
- 3 その他 スケジュール変更案について
- 4 閉会

■ 議事概要

- (1) 今後の進め方と検討手法（委員長提案）
- (2) 課題の抽出と分析

委員長より（資料1，資料2-1，資料2-2，追加資料右半分）説明

事務局より（追加資料左半分）を説明

【委員】

4～6回でこの検討委員会でどこまでの範疇で決めていくのか明確にあればわかりやすい。

【委員長】

「資料2-2」の右半分を本日までにして、次回には左上のクロスSWOT分析をする。そこま
でが検討委員会の内容である。

【事務局】

当初から機能とコンセプトを検討委員会で検討してもらおうということで、各委員さんにヒヤリン
グをしたが、論理的に整理をした方がいいということで検討の仕方を委員長に提案していただいた。
最終的に西敷地に必要な機能を決めていただく。案については何案ということは決めていないが、
「資料2-2」の3の、「積極攻勢」するための機能、「差別化」を図るための機能、「弱点強化」を
図るための機能、この3つが抽出できるのではないかと考える。委員長から3つの案をとるのは

ここの部分だと思う。

【委員】

今日は、検討委員会の回数と抽出する内容がこれでいいのかということでもいいのか。ヒヤリングは委員長とひとりで話をしたが、他の委員さんが話した議事録があれば見せてほしい。

【委員長】

委員のヒヤリングは、まとめて「資料1」の中ほどに記載している。

【委員】

SWOT分析は詳細にできていて非常に分かりやすい。ビジョンに着目したら、ありたい姿と避けたい姿が対極ではないと思う。ありたい姿を縛ってしまうとやりにくい。避けたい姿の魅力的でない部分というのは本当に避けたいことだと思う。そこから考えていった方がわかるのではないかな。他の委員も困惑していると思うし、自分も意見がまとまっていない。

【委員】

SWOT分析は非常によくまとめていて、強みが西敷地にはあると思う。人を集める力、集まりたい魅力のある場所、中心的な地にあるということ、市民の注目度が高い中で、ただの箱モノを作っているかということ考えた。委員長ともヒヤリングで話をしたが、個人的な意見ではあるが、広場にして、憩いの場や南海トラフ地震には避難場所、よさこい祭りの時の利活用を考えたが、何かをしなければならないというミッションがあるため、弱みも強みに変えることができるような理想的なものができればいいと思うが、何がと言われると困る。観光地であると同時に近隣には大学、高校、資料館や図書館もできる文化の高い土地であり、文化に通ずるものができたらいいと思う。

【委員】

SWOT分析はこのとおりであり、丁寧に項目を挙げており大いに参考になる。委員会のミッションはコンセプトと機能だと思う。「資料2-1」の3つの提案が委員長提案であるが、上の2つだと思う。このような委員会や審議会をやる場合は、テーマが決まっているが、市から何を諮問されたかということがよく分からない。中段に「地方公共団体における公的不動産と民間活力の有効活用についての調査研究報告書」があるが、もし市の思惑があるのなら、最初からこういう前提条件をもとに議論をしてくれということではないと、そのことを無視してやっているのか、市の考え方に乗っ取ってやっているのかわからないというのが私の印象である。SWOT分析の右側は疑問を持つ。委員長の考え方であるが、私の考えはこうではない。ありたい姿の「教育、商業、観光文化等の地域資源」とは何かということになると、それぞれの役割が違う。このような書き方をすると、「教育」も「商業」も「観光文化」も注視しなければならなくなり、箱モノを想定した時にてんこもり施設で固定されてしまう。市の前提を明確にしなければならない。前提条件なしならなしで提起すべきである。

【副委員長】

こういうものを造るから委員会で検討してもらいたいということであれば、こういう機能がいいということになるが、前回の部会では広場を含めたよさこい情報発信ということであった。委員長がまとめた任意事項というところが非常に重要である。税金が投入されずに、継続して運営していく。検討委員会よりもプロポーザルの方が重要である。延いては延いてはこのエリアの活性化に繋がる。民間事業者の自分だけの利益ではなく、例えばホテルができれば自分のところだけが儲けるということでもいいのかということである。検討委員会とプロポーザルの関係とかを市の方に示して

もらって、議論を深めないといけない。SWOT分析はこのとおりである。弱みよりも強みが多い。脅威はどこの都市でも一緒のことである。

【委員】

分析により強みと弱みが目に分かるような形になった。強みをどのように展開するかということが問題である。避けたい姿は一部の人しか使わないとか一部の機能しか持たないことである。委員長とのヒヤリングの時に、広場の機能がいいと言ったが、何もないようなものこそ色々使えるという考え方もある。民活という意味をもう少し具体的に理解してから更に考えたい。この地区には大学生や若者、商業をやっている人、観光客がいて、大学生や若者は教育問題、商業者は賑わいの問題、観光客は高知市にどういふものを観に来たのか、その全てを意識して話を進めなければならないが、そうするとてんこもりの話になる。てんこもりがいいのか悪いのか、それ自体を整理する必要があると思う。遊びの部分というか、余裕が街の空間にほしい。文化施設では図書館機能、博物館機能、その他集会ができる機能が市内中心部にいっぱいあるので、その中でも重なりがない、新しい機能の補充が必要だと思う。

【委員】

最近では海外から観光客が来て、高知城に上がってからひろめに流れている。強みが5つ、機会が9つにまとまっており、私も同じ意見である。委員長案のありたい姿についても、賛成である。

【委員】

SWOT分析でまとめてもらおうと見えてくる。いろんな機能があった方がいいが、てんこもりになると焦点がぼけてしまう。機能をどこまで絞るかという最終的なところまでは見えてこないが、手法についての道筋は見えてきた。

【委員】

先ほどSWOT分析はまとめていると言ったが、目的が地域商店街の活性化というのであれば、SWOT分析はずれているのではないか。このビルが地域商店街を利用して儲けるととられてしまう。このビルが地域商店街の活性化に繋がる起爆剤となるものでなかったらだめだと思う。何が強いというよりは、何が弱いのかということを出したほうが地域商店街のためになるのではないか、何が必要かわかるのではないか。自分の子どもはイオンに行きたがる。街は子ども向けの何かが少ないのではないか。

【委員長】

(子ども向けのものを)弱みにいれることはできないか。

【副委員長】

中活の計画の話のときに、駐車場の無料化の話などが出てきた。同じ土俵で勝負をしたら負けになる。一商店街とイオンとの勝負、その議論は無理である。ないところで勝負をしていって魅力的な商店街をいかに作っていくか。前回の時にアンケートして、ここの場所に何が必要かと聞いたら、「商業」が必要という声がたくさんあった。それはかなり前だったということもあるが、今は商業が強みということはない。商店街がどうやって他のもので活性化するかと思う。例えば百貨店や大型小売店を呼んでくるとかではなくて、それ以外の機能を呼んでくることによって、中心市街地の賑わいの創出、その中で新しい血が入ってきて商店を活性化していく。ブランドや値段では難しい。それ以外で魅力的な施設を作りながら、回遊性を高めていく。商店街の努力で生き残っていく。

【委員長】

要素として入れておいて、クロス分析する。あるものは全て入れたほうがいい。

【委員】

市のスタンスが担当部長からあった。それぞれの持っている機能をいかに活かしていくかということが大事である。何かを造って集客していくというのは高度成長期のことである。県都である高知市に街の風格や品格が問われている。機能を空間で残すということが大きな機能だと思う。ヨーロッパには広場があり、大小のイベントをやる。広場を形成するのがその街の品格、その発想を高知市も持つべきだと思っているが、高知市の前提条件を示さないと、議論としては混乱する。

【委員】

先ほどの意見は部長としてではなく、委員としての感想である。市民意見を聞くことは賛成であるが、導入機能検討後に聞いたときに、違う方向の意見がたくさん出たら、どのような取扱いするかを一定想定しておく必要がある。

【委員】

導入機能検討後の聞き方以外はない。コンセプトと機能がまとまったときに、出していく。賛否を含めた市民意見を聞く。委員会のミッションはコンセプトと機能まとめて市にお返しする。それを考えるのは市である。

【委員】

民活とは、民間資金で運営されていくということであれば、ただの広場にするということはありえないということか。鹿児島や熊本は市内の至る所に広い公園があって、都市の豊かさを感じる。空間が個人的にはほしいと思うが、民活となるとただの空間という案では成り立たないのだろうか。何からの形で運営ができれば建物を建てるという形をとらなくても可能性はあるだろうか。

【委員長】

今は何も否定はしていない。前提として民活で、定期借地権でやってほしいということである。

【事務局】

第1回の会で高知市の考え方をお示ししている。民間に土地を貸して事業を行っていただく、事業を行っていただくにあたり、委員会で出していただいた機能を入れていただくということを条件としている。

【副委員長】

プロポーザルを行っていくことは、我々でこれがいいといっても、採算取れるとはじいたら手を挙げてくる、経済事業である。行政がやって税金を投入して市民が認める施設であれば問題ないが、文化施設が手に合わなくなって、無駄な税金を投入するのは絶対に避けないといけない。全国各地にそのような例がたくさんある。市に払い下げになることが現実にある。民間活力というのは簡単に言うが、やる方にとったら大変なことである。商店街のポテンシャルが下がっている中でどうやって賑わいの創出をするか。プロポーザルは大手じゃないと無理で、何かを造って家賃収入がないと地代が払えない。理想を言ってもプロポーザルがあるから難しい。

【委員】

民間企業というものをこの委員会である程度の縛りをつけることができるのか。例えば、市内に

ホテルがたくさんあるが、そこにいい場所だからということで手が挙がったときに、私たちホテル業界は反対をするが、プロポーザルで手を挙げたからにはできるのではないか。そういう縛りはできるのか。

【委員長】

3つの提案の中にそういう条件をいれていってはどうかと思っているが、あんまりやるとプロポーザルに出てこなくなるので兼ね合いが大変だとは思う。最初からビジョン計画がないので、SWOT分析の中で、ありがたい姿と避けたい姿を出した作業をした。今後はクロス分析をして、ありがたい姿と避けたい姿をフィードバックしながら、整理していくようになる。

午後3時50分終了